中国がわかるシリーズ19

再統一への動き（後）

ライフネット生命株式会社
代表取締役会長兼 CEO、出口　治明

朝鮮半島では、6 世紀に入って、新羅が徐々に強盛となり、高句麗の覇権が揺らぎ始めます。新羅の法興王（514～540）は、527 年、仏教の公認を断行し、536 年、新羅は初めて、独自の年号（建元）を定めました。次の真興王（540～576）は、領土拡大に努め、554 年、百済の聖王（聖明王）を敗死させました。なお、これに先立つ、538 年には、百済の聖王が、（最先端の情報、技術である）仏像と経論を倭国に贈ったと云われています（仏教の倭国への伝来年代については異説が多々あります）。おそらく、新羅の脅威を受けて、（見返りに）倭国の軍事援助を期待したのでしょう。仏教の伝来は、寺院を通じて、仏教を荘厳にする貴金属の発達を促しました。それまで、威信財としてあまり人目に触れなかった貴金属が、大衆の目に触れるようになったのです。

［北］周を建国した宇文氏は、鮮卑の有力 6 部族の 1 つであり、尚武の気風を失ってはいませんでした。［北］周の 3 代、武帝は、574 年、仏教、道教を共に禁止し（法難の第 2）、577 年には華北を統一しました。武帝は、滅ぼした［北］斉の人材も公平に活用したので、国力は充実し、中国の統一は時間の問題かと思われました。

ここで、目を北方に転じてみましょう。北匈奴が、［東］漢によって弱体化した後の北方、モンゴル高原では、鮮卑が強盛となりましたが、魏（三国）、晋の時代に、華北に移住してきたため、その後を、高車、柔然が襲いました。5 世紀から 6 世紀にかけて、ユーラシアの草原地帯では、東から、西にかけて柔然、高車、エフタルの 3 国鼎立時代が始まっていたと考えられています。402 年、柔然の族長、社崙が、初めて皇帝号として可汗（カアン）という称号を用いたとされていましたが、最近の学説では、この称号を最初に用いたのはどうやら鮮卑であるようです。［北］魏は、柔然との戦いがあったので、なかなか南朝攻撃に全力を投入することが出来ませんでした。

6 世紀の半ば、草原地帯に異変が生じました。テュルク族の族長、土門に率いられた突厥という新勢力が台頭したのです。突厥は、まず、高車を滅ぼし、続いて、552 年、柔然を滅ぼしました（柔然は、西走し、アヴァールとして、ドナウ河流域に大帝国を築きます）。土門は、伊利可汗と称しました。土門の弟は、西進し、サーサーン朝と結んで、エフタルをも撃破しました。スキタイや匈

Copyright　ⓒI-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社
発行人：岡本和久、発行：I-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社
URL: http://www.i-owa.com；E-mail: info@i-owa.com

奴に次いで、ユーラシアの大草原地帯は、突厥によって再統一されたのです。高車同様の狼祖伝承を持つ突厥はユーラシアで最強の軍事力を誇り、その後、約 200 年に渡って、ユーラシア中央部を支配することになります（突厥は石人でも有名です。なお、突厥は建国時から、ソグド商人と密接な関係を有していました。テュルクの軍事力とソグドの経済力が、国の根幹を成していたのです。唐の李淵が挙兵した際に、東突厥は兵を貸しましたが、ソグド人も深く係り、玄武門の変では、太宗に協力しています）。今でも、トルコ共和国は、552 年を民族建国の年としています。俄かに、強大な新勢力が北方に現れたので、対立する[北]斉と[北]周は、それぞれ、突厥によしみを通じてその歓心を買おうと努めました。578 年、華北を統一して国力を充実させた[北]周の武帝は、突厥に親征を試みますが、志半ばにして病没してしまいました。武帝の志は、隋唐世界帝国が受け継ぐことになります。

Copyright ⓒI-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社